

スペリア佐屋の防災について-2

4 スペリア佐屋周辺の過去の災害

(1) 地震

年月日	名称	規模
明治24年10月28日	濃尾地震	M8.0
昭和19年12月7日	東南海地震	M7.9
昭和20年1月13日	三河地震	M6.8
平成7年1月17日	阪神・淡路大震災	M7.3
平成23年3月11日	東北地方太平洋沖地震	M9.0

(2) 主な風水害

年月日	名称	台風
昭和34年9月26日	伊勢湾台風	15号
昭和51年9月8-13日	長良川豪雨	17号
平成12年9月11-12日	東海豪雨	14号

- 伊勢湾台風は夕方から深夜にかけ岐阜県西部を通過したため、当地方は日光川の堤防決壊と高潮により海岸からの被害により、27日の正午頃に名鉄線まで浸水し、スペリアが建っている土地(旧荒井製作所)は2ヶ月前後にわたり水が引きませんでした。
- 長良川豪雨は長期間の豪雨で長良川が益水し、岐阜県安八町付近の堤防が決壊し、大きな被害になりました。
佐屋地域でも多くの場所で道路の冠水が発生しました。
- 東海豪雨は天白川や庄内川、新川が決壊し、その付近は大きな被害が発生しました。
なお、スペリア南館1階の一部では共用廊下が益水し、もう少し長く降雨が続いた場合は居室へ浸水する恐れがありました。



伊勢湾台風の進路



東海豪雨

5 スペリア佐屋を取り巻く環境

(1) 当地方はゼロメートル地帯のため台風や豪雨による被害が懸念され、万一、水が溜まればスリ鉢状態のため自然排水が難しいとされます。

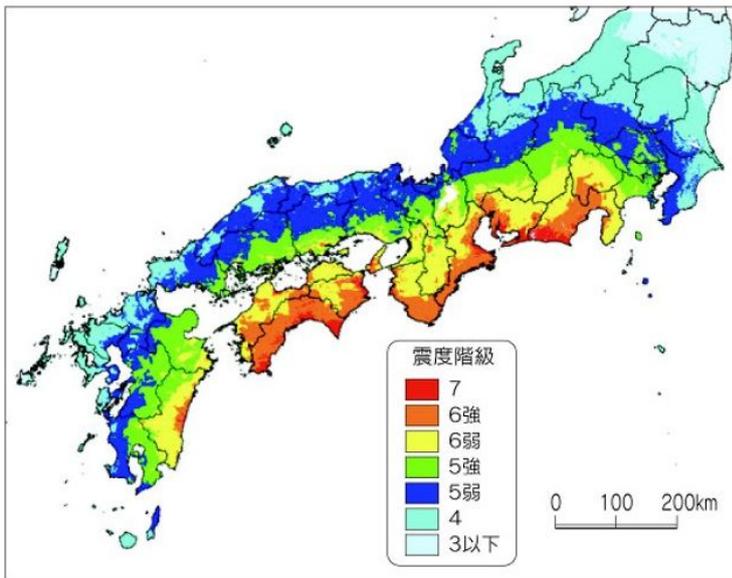
ここ、数年ではゲリラ豪雨が発生した地域がありますが、低気圧が南を通過しているため豪雨等から免れておりますが、伊勢湾台風時のように当地域の北側を台風や低気圧が通過する場合は大きな災害が発生するかも知れません。

伊勢湾台風時と比べると地盤沈下が進んでいることと、宅地開発により降雨時には一時的な貯水能力があった田畑が減少してしまったことで、災害が大きくなる懸念があります。

(2) 昭和51年(1976)頃から東海地震の発生が話題になり、30年ぐらい前からは「明日、起きても不思議ではない」と言われている間に、阪神・淡路大震災や東北地方太平洋沖地震が発生してしまいました。

現在は、南海トラフ巨大地震が懸念されているように、地震発生の予知は難しいと考えられますが、いざと言う時のために備えておくことは大切なことと思われまます。

南海トラフ巨大地震 震度階級



震度と計測震度の対応表

震度階級	0	1	2	3	4
計測震度	0.5未満	0.5以上 1.5未満	1.5以上 2.5未満	2.5以上 3.5未満	3.5以上 4.5未満
揺れのイメージ					
震度階級	5弱	5強	6弱	6強	7
計測震度	4.5以上 5.0未満	5.0以上 5.5未満	5.5以上 6.0未満	6.0以上 6.5未満	6.5以上
揺れのイメージ					

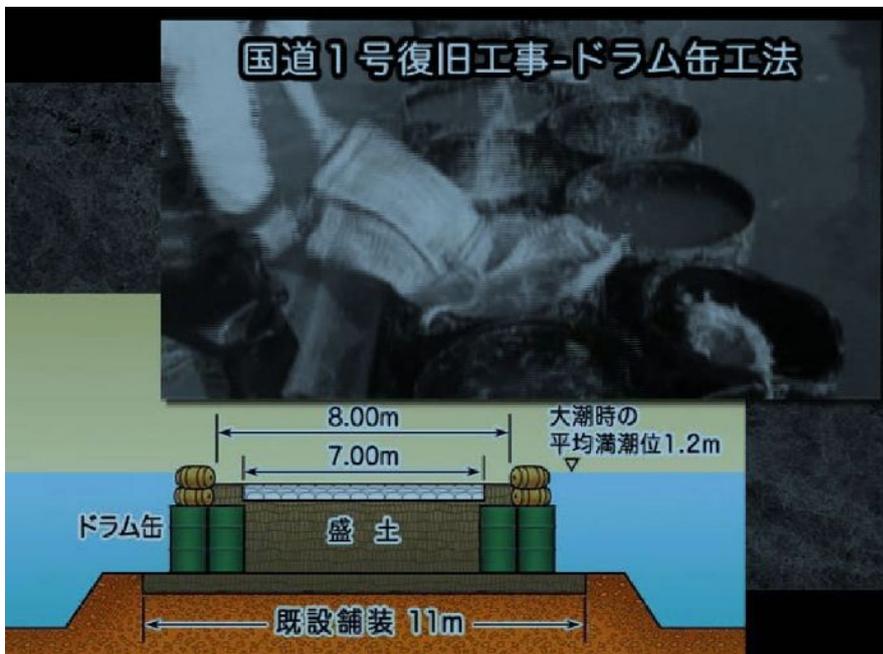
- (3) この地方の断層は、養老～桑名～四日市の断層があり、1回のズレは上下に6mでM8クラスの地震が発生すると予想され、過去、2,000年間に2回発生したと言われています。
- (4) 原発が稼働され、万一、福島のような事故が発生した場合を考えると、スペリア佐屋から浜岡原発までの直線距離は約130Kmあり、風向き等を考慮しても被害はないものと考えられます。
一方、福井原発からスペリア佐屋までの直線距離は約83Kmで、飲料に用いている木曽川水系で最も近い場所は岐阜県笠松町付近で約70Km離れており、風向きにより河川への影響も考えられます。
- (5) スペリア佐屋の敷地内と付近の駐車場には約300台前後の車が駐車しており、仮に1台平均20リットルのガソリンを保有していればトータルで6,000リットルで、ドラム缶で30本分のガソリン量となり、火災が発生すれば車両を会しての火災は想像を絶するものとなり、初期消火や一刻も早い消防署への通報が重要となります。
- (6) 巨大地震発生時の津波の被害は東北地震で立証済みですが、海岸からどれだけ離れていたら安全かは誰も知りません。
スペリアから鍋田沖の海岸までは約12km離れており、伊良湖～鳥羽間の会場までは約82km離れております。



東北地震での河川の遡上は、北上川では49kmという記録がありますが、被害を被ったわけではありません。

地震の発生場所や河川の状況により異なるため、津波が木曽川へ遡上しても何処まで流れて上るのは定かではありません。

なお、日光側はポンプ排水のため、名四国道(R23)の道路面が堤防の高さとなります。



伊勢湾台風後は中川区~弥富市の国道1号線は水が引かず、東西の輸送確保のために国道の両脇にドラム缶を建て盛り土、舗装をして通行を確保しました。当時は道路わきの建物がドラム缶の高さほど低かったが、現在は面影も感じられません。なお、近鉄線は名古屋~中川間は「狭軌」が、バスでの代行運転を行い現在のような「広軌」のレールの工事により、伊勢や難波方面の直通が可能になりました。

※ 愛知県の防災学習システム

<http://www.pref.aichi.jp/bousai/>

※ 名古屋市の防災情報

<http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/20-2-0-0-0-0-0-0-0-0.html>